

## 〜聖なる山 に抱かれて〜

毎年旧暦の六月二十五日は、町内各地で綱引き行事が行われます。字我謝・小波津・幸地のほかに、毎年約十もの字で綱引きが行われていること、みなさんご存じでした？

今年（七月三十日）は、台風のためあいにくの雨天模様となりましたが、字呉屋の綱引きを見学してきました。

午後四時頃、区長をはじめ有志の方々が字の背後の山・呉屋モーの拝みから戻ってきました。

綱引きの拝みは、本来旧六月二五日に行うべきなのだそうですが、現在は人の



呉屋モーをバックにワイワイガヤガヤ

集まりやすい日曜日に綱引きを行っているので、二五日当日は「延期します」という報告をし、さらに綱引きを行う日に、「これから綱引きを行います」という内容の拝みをするのだそうです。

その後、公民館で字民が集まるのを待ちながら、午前中につくっておいたウンサク（神酒）がふるまわれます。私も甘いウンサク（以前は三日前につくっていたので、発酵して酸っぱかった）をいただきながら、綱引きの話をつかいました。

綱引きの由来は、昔、呉屋で頻繁に火災が起こり、それをしずめるため綱引きが行われるようになったとの伝承があるようです。

綱の材料は、戦前がワラ、戦後一時期はカヤ、その後ロープにとって替わりました。しかし、約一〇年ほど前から、金武町伊芸よりワラを購入し作製するようになったといえます。戦前に戻ったというわけですね。

綱引きは、字を二分する中道から東組（雄）、西組（雌）にわかれますが、綱づくりは呉屋モーにあるアシビナーで、東西が力をあわせてつくるのだそうです。雄雌の綱を結ぶ力又子棒も、以前は呉屋モーから調達（松など）

してきたのだそうですが、現在は市販されているものを使用しています。

午後五時半ごろ、鉦が打ち鳴らされると、公民館前に集まった人々が東西にわかれ、子どもを乗せた綱の頭を棒で持ち上げ、両綱を近づけていきます。綱の側では、婦人たちが太鼓を鳴らして応援です。以前は、呉屋でも独特の綱引きガイー歌（応援歌）があったといいますが、今となっては忘れられているとのこと。

力又子棒を差し込み、綱頭が地面に打ちつけられると、いよいよ勝負が始まります。両組とも一生懸命ひきますが、みんなの顔は笑顔です。一度目は東が、二度目は西が勝ち、勝負は引き分けとなりました。

以前は、ムラを二分する綱引きは、その勝敗が原因となつて激しい争いとなり、ついには綱引きを取りやめてしまったという話も聞きますが、ここ呉屋においては、例年の勝負が引き分けとなり、まるくおさまっているようです。

綱引き終了後は、公民館前に綱の輪をつくり、手作りの料理を食べながら親睦を深めます。その様子は、まるで字の聖地・呉屋モーに抱かれた字民の和を見ているようで、ほのほのとした気持ちになりました。